

落語を聴く。噺が奏でる世界にはまる

男の隠れ家

2007 December 12
定価680円

毎度おなじみの
お笑いを一席の



Interview

柳家小三治
春風亭昇太
立川談春

落語を愉しむための
江戸庶民生活事情



上/マーティンボロのシンボル、ナワカの丘。3艘のカヌーを伏せたような形は、この地にたどり着いた3人の勇者の乗り物と伝わる。中・下段/首都ウエリントンから東北東へ80kmほど。マーティンボロは人口2000人に満たない郊外の町。どの家の庭も手入れが行き届き、町の中心には洒落たカフェがある。町内に36、郊外を含めたワイララバ地区では50ほどのワイナリーがある。「ドライ・リバー」(中段左2つ目)は、アタランギと並び称される第一世代のひとつだ。「丘に囲まれた特殊な地形(中段左)を生かして、高品質なワインが生まれます」と、お薦めのピノ・ノワールを並べるワインセンターのレオンティース・カンブシュールさん(下段左)。



栽培が難しいぶどう品種で世界に挑戦！

ピノ・ノワール に魅せられて

格別の香りと、
豊かな味わいの
ワインを造る
ニュージーランドの
醸造家たち

山同敦子さんとニュージーランド・ピノとの出会いは、
日本人醸造家が醸した美しいピノ・ノワールだった

文◎山同敦子(食と酒のナビゲーター)

撮影◎越田悟全

協力◎ニュージーランド貿易経済促進庁/ニュージーランドワイン協会/ニュージーランド航空

Schubert Wines シューベルト・ワインズ

ドイツ人のカイ・シューベルトが98年に創設。ピノ・ノワールのほかに、カベルネとメルローのブレンドや、3種の白のブレンド、ドイツ品種の甘口など多品種のワインを精力的に造り、その90%を20カ国に輸出している。生産量は天候によって異なるが2万4000本~4万本。どのワインもバランスが秀逸で、初心者にも抵抗なく飲める柔らかさがある。

57 Cambridge Road Martinborough 5711, New Zealand
<http://www.schubert.co.nz>
 輸入元:アサヒワインセラー TEL03-3951-6020



多品種があるシューベルトのワイン。左から果実味豊かなピノ・ノワール「ブロックB」、タフなピノ「マリオン・ヴィンヤード」、シラー、カベルネとメルローのブレンド、爽やかなSB、シャルドネなど3種ブレンド「トリビアンコ」、甘口の「ドルチェ」。



人懐っこい笑顔のカイ・シューベルトさん。「カイはマオリ語で食べ物のこと。僕が子供のときから料理好きだったのは運命かもしれないね」

149 男の隠れ家 december 2007

全てを捨てて ワインに打ち込む

海外での仕事を望み、転職して領事館の仕事に就き、充実した生活を送っていたものの、自分の立ち位置ではないなと感じ始めたという。「組織の中で生きるのではなく、個

人として、世界の中でどれだけ通用するか。自分の可能性を試したいと考えるようになったんです」

その手段として選んだのが、大好きなワインを造る道だった。決心したら即、行動である。ガイゼンハイム大学葡萄栽培醸造学部に入學するために、ドイツ語を半年でマスター。

同じドイツの大学で学び、世界に誇るピノをめざす夢を共有する親友、カイとヒロ。熱を帯びると二人の会話は英語からドイツ語に変わる。



楠田浩之 ぐすだひろゆき

「クスタ・ワインズ」オーナー・ワインメーカー。埼玉県生まれ。42歳。慶応義塾大学法学部を卒業し、富士通で4年、外務省外郭団体の派遣員としてシドニーに4年勤務。兄がワインの本の翻訳を手がけていたこともあり、学生時代から親しんできたが、32歳のとき、ワイン造りを一生の仕事にすると決意。ガイゼンハイム大学でワイン造りを学び、37歳でクスタ・ワインズ設立。畑仕事から一人で行き詰る。

Kai Schubert カイ・シューベルト

「シューベルト・ワインズ」オーナー・ワインメーカー。ドイツ・シュトゥットガルト生まれ。38歳。食通で、料理の腕もプロ並み。高校生のとき、ワインが料理の味を何倍にも高めることに興味を持ち、醸造家を志してガイゼンハイム大学で学ぶ。マーティンボロをピノ造りに最適な土地と見極め、ドイツ出身のパートナー、マリオン・ダイムリングさんとともに移住。98年ワイナリーをオープンした。

Marion Deimling マリオン・ダイムリング

シューベルト・ワインのワインメーカー。ドイツのボデン湖近くのハーゲナウ出身。ガイゼンハイム大学を卒業しオーストラリアのワイナリーで働いていたが、カイ・シューベルトさんに誘われて、ワイナリーを設立と同時に移住した。しっかりとした構成のワイン好み。マリオン名のワインもある。